

# スタジオ夜話

第82話 スタジオ夜話

## 「いまさらですがレコードを楽しむ」Ⅴ

### ☆ はじめに

早いもので年明けからもう一月がたちます。昨年から続く異常気象で全国が暖冬となり雪のない豪雪地帯、スキー場がオープンできない、雪まつりなどでは山から雪を調達するなど大変な事になっています。まだ昨年の台風災害から復旧出来ず不便な日々を過ごしている方もいらっしゃると思います。一日も早く普通の生活が送れますように。今年は酷い災害に会いませんように願います。さてスタジオ夜話今回も前回に続き「いまさらですがレコードを楽しむ」(傍)です。スタジオ夜話的なお話です。お付き合いよろしくお願いたします。

### ☆ 「ハイレゾ時代のアナログレコード」 媒体の簡単な歴史背景

前号ではキングレコードのアナログレコードへの取り組みについて取材報告をしました。今回はちょっと違った角度からアナログレコードについてお話します。そもそもハイレゾ時代のいまなんでアナログレコードなのでしょう。とお話する前に音楽などの供給媒体の歴史に軽く触れておきましょう。(豆知識的に確認の意味も含めて)ご存知の通り録音の歴史は1877年12月6日にエジソンが発明した「フォノグラフ」といわれています。正確には記録再生ができる媒体としてであります。

記録のみのシステムは1957年にフランスで、媒体再生の可能性の発明は1876年の電話機グラハム・ベルによってなされたともいえます。スタジオ夜話的には1877年12月6日エジソンをレコードの起源としています。(日本オーディオ協会が定めた

「音の日」12月6日はこのエジソンの偉業を讃え決められたと思われ(エジソンの「フォノグラフ」は円筒状の形状をしたメディアでした。現在の円盤状のメディアは1887年にエミール・ベルリナーが「グラムフォン」を発明したのが始まりです。市販レコードは1948年6月にコロムビア社(アメリカのレコード会社現在はソニー傘下)より発売されました。「グラムフォン」の発明から60年を経て現在のスタイルになったと言えます。

デジタルの媒体CDが1965年に発明されます。正確にはCD(コンパクトディスク)という商品ではなく光学録音の技術を発明したということです。(アメリカの発明家:ジェームス・ラッセル)現在私たちが手にしているCDは1982年に発売されます。同時に媒体再生用CDプレーヤーも発売されました。デジタルオーディオ時代の幕開けです。しかし発売当初はアナログレコードも健在で一時期アナログ派とデジタル派の音質良し悪し論争が絶えませんでした。スタジオ夜話的には音質も大切な要素ですが、音楽そのものについて様々な意見交換が欲しかったです。そして時代はハイレゾ時代へと向かいます。その最初の製品が1999年のSACDです。

SACDは現在でもハイレゾ音源の中心となっています。またCDと同じPCM方式で記録する媒体はサンプリング周波数と量子化ビット数でそのクオリティが向上するので記録媒体の容量が多いDVDオーディオやブルーレイなどの媒体も期待できます。残念なのは音楽ソースが少なく普及が進んでいません。

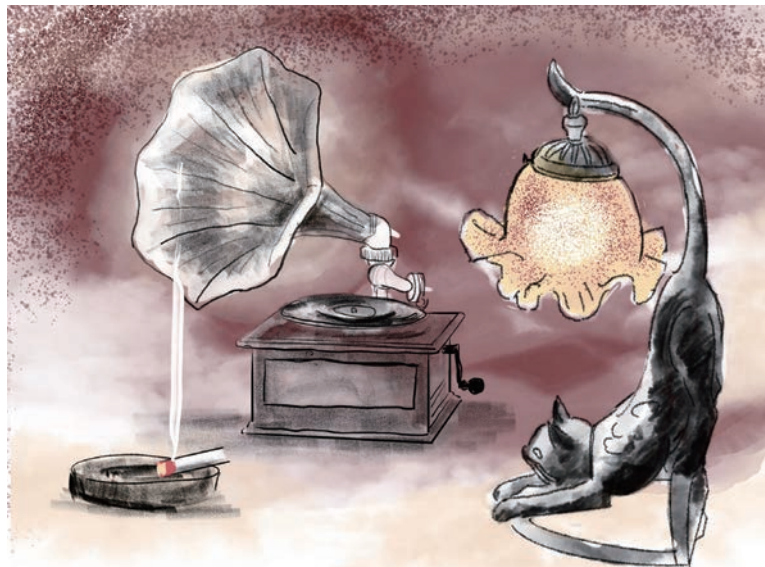
筆者はDVD-VIDEOの鑑賞をお勧めします。特に音楽系は映像も音も優れています。

さて話を元に戻しますがCD発売当時健在だったアナログ派の人たちはその後時代の流れに乗り現在でもデジタルとアナログを両方楽しんでいるのが現状のようです。ハイレゾ時代でも十分にアナログの魅力は発揮されているようです

### ☆ 「ハイレゾ時代のアナログレコード」 アナログレコードを取り巻く環境

1982年にCDが発売されました。38年前のことです。最近こんな古い媒体がちょっと注目されています。何故でしょうか。確かにおじさんにはノスタルジ的な要素をもってして注目はあります。また所謂マニアによる支持もあるでしょう。しかしそうとも言えないものもあります。昨年朝のNHK番組でもアナログレコードの魅力について語られていました。またべつ番組では角度を変えて外国人のお土産ランキングで渋谷の中古レコードショップがナンバーワンに選ばれていました。筆者もたまたま購入していますが、たしかに10年ほど前と比べると店舗数も格段に増え、外国人のお客さんが増えていると感じます。また若い世代(CD世代以降)の人もかなりいます。

むしろレコード全盛団塊の世代より多いようです。ざっと渋谷の中古レコードショップは20店舗を超えます。若者の街渋谷です。7年ほど前になります。NTV「所さんの目がテン」という番組でアナログレコードの特集を放送していました。専門家である読者皆様には若干の異論がありそうな内容でしたが実に面白く様々な角度から特集していました。参考までに内容についてはNTVのホームページ「所さんの目がテン」



アナログレコードというと紫煙と着音器を連想してしまいます。  
音楽を聴いているのは犬とは限りません。(m)

で解説されています。こうしたアナログレコードを取り巻く環境がまたアナログ復活への一助となっているのでしょう。

☆次回は

いよいよ「音の良し悪し」音質への取り組み。

いったい何が良い音なのか？

良い録音とは？

様々な音に関係するプロのお話を特集していきます。ご期待ください。まだまだ暖冬とはいえ寒い日もあります寒暖の差が激しい日々皆様のご健康でありますようお願いしています。

オーディオメディアのザクッと歴史

1950年代	LPレコードが主流の時代
1982年	CDが誕生 アナログとデジタルの混在時代
1999年	SACD (DSD) ハイレゾ時代到来、CDがまだまだ主流 アナログレコードが海外一部で人気急上昇
2003年	MP3やAACなど圧縮技術を使った音楽配信が始まります。 CDは音楽配信に押され売り上げが減少 このころからレコード会社の整理統合が始まる。
2012年	ハイレゾ音源の配信がはじまります。媒体としてCDはまだまだ健在ですが 売り上げはダウン。 何故かアナログレコード復活の兆し。
2020年	推移を是非読者皆様で推理してください。配信から物的媒体へのこだわり？

渋谷 中古レコードショップ URLrecoya.net/japan/tokyo/shibuya  
「所さんの目がテン」 URLntv.co.jp/megaten/archive/link/right\_library.html  
上記にアクセス 1193回 2013年9月8日放送分

— 森田 雅行 —